

視察研修報告書

1 委員会名	文教民生常任委員会
2 実施名称（テーマ）	文教民生常任委員会県外視察研修 地域医療の現状と課題について 障害者対策について
3 実施期日	令和元年7月24日(水)～25日(木)
4 実施場所	東京都新宿区 社会福祉法人 日本点字図書館 東京都千代田区 衆議院第二議員会館会議室
5 実施目的	視覚障害者対策について 日本点字図書館の運営について 中之条町（吾妻郡）の医療に対する取り組みについて 厚生労働省の地域医療構想・医師偏在対策について
6 参加者の氏名	委員長 安原賢一 副委員長 山田みどり 委員 小栗芳雄、劔持秀喜、山本日出男
7 その他	

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
安原 賢一
2 視察研修の実施名称（テーマ）
<ul style="list-style-type: none">・ 障害者対策・ 地域医療の現状と課題
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
<p>予想された渋滞も少なく、予定より早く到着して受付を行ったところ、社会福祉法人日本点字図書館担当者の配慮で、前倒しで視察対応を行っていただきました。</p> <p>社会福祉法人日本点字図書館が、もともと国立・公立でない民間の施設で、その事業は国や東京都からの補助金の他、個人や企業、団体の支援によって支えられていることを知りました。</p> <p>この点字図書館は、目が不自由な人たちの「本を読みたい」という切実な願いを叶えるため、指で読む点字図書と耳で聞く録音図書を製作し、全国の視覚障害者の皆様に無料で貸し出しています。</p> <p>議員会館の会議室を借りて、厚生労働省の担当者4名の方にお越しいただき、「地域医療構想と医師偏在対策」について説明をいただきました。</p> <p>吾妻郡・中之条町において、病院、へき地医療、小児医療、周産期医療、地域医療、そして現在直面している問題について説明をいただき、たいへん有意義な視察ができました。</p>
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
吾妻郡の地域医療を守るために、今何が必要か。

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
山田 みどり
2 視察研修の実施名称（テーマ）
文教民生常任委員会 県外視察研修 ・日本点字図書館 視覚障害者対策について ・厚生労働省 担当者から中之条町の医療体制について
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
<p>・中之条町は視覚障害者の対策については後進的な印象である。需要がそれほどないということや要望が届かなかったというのも要因の一つなのかもしれない。</p> <p>1940年に創設された民間の日本点字図書館は、視覚障害者のニーズに合わせて点字図書だけでなく録音図書も取り扱われている。障害にかかわらず本を読みたい。そうした当たり前の権利を守るためにも、障害者の視点で町づくりが重要である。駅や観光地など、様々な方が利用する場所のハード整備、図書館や案内などのソフト事業を充実させる必要があると感じる。</p> <p>・吾妻地域における医療体制、特に産婦人科がなくなり、小児科の入院が出来ず著しく後退しているという現状にある。</p> <p>厚生労働省の担当者から政府が示す地域医療構想についてと医師偏在対策について説明があった政府が示す2040構想のように自治体への比重が大きくなる現状で採算の取れない病院は統廃合される他ない。現段階での医師不足解消の具体的解決策は見いだせず、この構想では2022年度以降の計画での効果が出始めるのは2036年以降。</p> <p>急務としている吾妻地域の医師の確保は県単位での調整が現状だ。町としても県へと働きかけをより強める必要がある。へき地医療では四万へき地診療所から補助金の申請が上がっていないという。これについてどのような理由でなのか調査する必要がある。</p>
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名	小栗芳雄
2	視察研修の実施名称（テーマ）	① 『日本点字図書館』視覚障害者の世界を広げる点字図書・録音図書。 ② 『厚生労働省 医政局 地域医療計画課』地域医療構想と医師偏在対策について。
3	実施結果に対する所管、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）	① 【社会福祉法人日本点字図書館】東京都新宿区高田馬場 1-23-4 ・昭和 15 年、全盲の本間一夫氏が 25 歳で「日本盲人図書館」を創立（当初蔵書 700 冊）。 ・戦災により茨城県へ疎開、その後北海道へ避難、東京の図書館は空襲で全焼する。 ・終戦後全焼した図書館を再建、幾多の困難を乗り越え現在に至る。 ・2018 年度の蔵書総数：点字図書 21,536 タイトル（80,659 冊）、録音図書 17,277 タイトル。 ・利用登録者数 12,677 人、貸出数：点字図書 7,264 タイトル、録音図書 107,317 タイトル。 ・ボランティア：点字図書 80 人、音声図書 60 人との説明を受けたが資料によると図書制作に携わるボランティアの総数は 800 名を大きく上回っている。 ・事業内容：図書貸出し、図書制作、視覚障害者用具の販売あつ旋、自立支援事業など視覚障害者の支援に必要な事業を多岐にわたって実施している。 昨年、緑内障が発覚し視野が狭くなってきた私にとって大変興味深い視察研修となりました。館内には、視覚障害者が安全に利用できるよう手摺など要所要所に点字の表示や、点字ブロックの設置があり、館内で働く視覚障害者と思われる職員も大変スムーズに移動が行っていました。歩道や駅構内などに設置してある点字ブロックの意味についても今まで何気なく見過ごしていたためどんな意味があるのかも解りませんでした。丸い粒状の点が並んでいるものが「警告ブロック」細長い線のような突起が平行に並んでいるものが「誘導ブロック」である事を知りました。点字図書 1 タイトルが数冊になってしまう理由は、1 音が 1 文字で、文字の大きさを変えられないことなどから多くなってしまい、コンサイス英和辞典などは 100 冊ほどになってしまうそうです。点字図書の作成も 1 枚 1 枚手作業で印刷しなければならず、原盤造りから製本までの苦労が見えた。館内にある「わくわく用具ショップ」のカタログには、音声体重計・音声血圧計・音声電卓・音声時計・音声体温計など沢山の商品があり産業界でも視覚障害者のために努力をしてくれていることが解り嬉しかった。現在いろいろな工夫で障害を持つ人たちの生活が豊かになりつつあるが、多くの健常者の皆さんに理解されなければより豊かな生活を送ることができません、自分自身も反省して障害を持つ人たちがより豊かな生活が送れるよう取り組んでいこうと思います。
②	【厚生労働省 医政局 地域医療計画課】地域医療構想と医師偏在対策について。	救急・周産期医療、小児・周産期医療、へき地医療について 4 人の専門官に出席していただき資料を基に「地域医療構想と医師偏在対策について」説明を頂いたが、大変難しい内容だった。今後も高齢化が進み「治すこと・救うこと」から「癒すこと・支えること・看取ること」が多くなってしまい、少子・高齢化・人口減少が今後の地域医療に大きな変化をもたらさそうだ。
4	その他	

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	劔持秀喜
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人日本点字図書館 視覚障害者対策について ・ 衆議院議員会館 厚生労働省担当者4名 地域医療について
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>・ 社会福祉法人日本点字図書館 視覚障害者対策について</p> <p>見聞を広めることができ有意義な視察であった。創立者「本間一夫」さん、北海道ニシン漁の網元の家に大正4年に生まれ5才の時脳膜炎にかかり視力を失う。13才で点字に出会い、大学卒業後の昭和15年700冊の点字本で「日本盲人図書館」を設立しそこから全国の希望者に無料で貸出を始め、翌年現在の高田馬場に移転。しかし戦争で全焼、それでも終戦後再建し「日本点字図書館」に改称。その後、外国の福祉政策を学ぶため50日間ヨーロッパへ、日本に無かった様々な情報と用具などを持ち帰り日本の点字図書がさらに充実、平成15年87才で永眠。</p> <p>図書・雑誌・DVD映画の音声解説CDの貸出、図書の配信、点字図書約2万1千、録音図書約1万5千、日本最大規模の点字図書館。その他、希望点訳、個人朗読、相談支援、点字教室、点字図書・録音図書の制作、様々な情報のユニバーサルデザイン・点字化・音声化等々、膨大な仕事量を多くのボランティアとともに行われています。国家予算は勿論ですが、多くの善意による寄付によって運営されており、この施設・事業を多くの方に知ってほしいと痛感しました。</p> <p>・ 衆議院議員会館 厚生労働省担当者4名 地域医療について</p> <p>医政局地域医療計画課の4名の若き職員の方(1名は小児科医)から、地域医療構想と医師偏在対策について詳細な資料をもとに説明を受け、その後意見交換。当町のへき地医療を含めた医療環境を事前にしっかり調査もしていただいております、へき地拠点病院補助金など具体的な指導も受けて参りました。途中小渕優子衆議院議員が顔を出していただきましたが、地元の切実な課題にぜひ力を発揮していただきたいものです。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>点字図書館での研修、館内視察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>厚生労働省の担当者との意見交換</p> </div> </div>
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
	<p>20年程前にガイドヘルパーの資格を取った時の研修を思い出しました。</p> <p>当常任委員会の守備範囲は広くかつ住民生活に直結しており、調査研究する課題も多くあります。今後も研鑽を積み重ね、教育・福祉・様々な分野の活動を積極的に展開していきたいと思っております。</p>

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	山本日出男
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	<p>① 視覚障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための日本最大級の施設の現状視察</p> <p>② 厚生労働省の地域医療の現状分析と将来構想について</p>
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>①見えない人の「読めるしあわせ」を叶えるためにと、北海道出身の本間一夫が創立した日本点字図書館を視察した。</p> <p>1歳の時に母を亡くし、5歳で脳膜炎にかかって視力を失った本間は周りの人に本をたくさん読んでもらったが、学校に通えず好きな本が読めずにいた。13歳で点字と出会いロンドンにある点字図書館を知り、日本にも点字図書館を作りたいという思いから、1940年日本盲人図書館を設立した。東京の図書館が戦争の空襲で全焼したが、今では日本点字図書館になり、全ての分野の本が点字や音声で聞く事が出来るようになった。60人を超える人が支援のために働き、点字の本・声の本を作る事、図書館の貸し出し・配信、見えにくくなった人のための教室、1,000点を超す便利グッズの販売など多岐に渡っている。映画館でも楽しめる音声ガイド配信の作品も多数製作されている。</p> <p>②地域医療構想と医師偏在対策について厚労省医政局 地域医療計画課より説明を聞く</p> <p>中之条町及び吾妻郡内で医師不足、看護師不足により将来の地域医療に不安をいだき、また、少子高齢化到来の中での、これから安心して暮らせる地域医療政策について聞いた。</p> <p>平成27年4月より都道府県が地域医療構想を、2025年に向け病床の機能分化・連携を進めるために平成28年度中に策定。また毎年10月に医療機能の現状と今後の方向を報告。医療機能の報告を活用し【地域医療構想調整会議】で議論・調整する。都道府県は年4回【地域医療構想調整会議】を実施すること。また、公的医療機関は「新公立病院改革プラン」、「公的医療機関等2025プラン」を策定し平成29年度中に協議し民間医療機関との役割分担について確認する。</p> <p>上記をふまえて再編統合の必要性について地域全体の医療提供体制を協議する。</p> <p>地域間の医師偏在については、医師少数区域で勤務した医師を評価する制度の創設、都道府県における医師確保対策の実施体制の強化、【地域医療対策協議会】の機能強化、医師養成過程を通じた医師確保対策の充実（地域枠・地元入学者枠など早急な対策を講じる）。</p>
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
	<p>◎「日本は福祉の分野ではまだまだ外国に比べると後進国です。権利において、義務において、晴盲二つの世界があくまで公平でなければならぬ」と本間一夫は述べている。正にそのとおりだと思う。私たちも、もっと目をむけるべきだと考える。</p> <p>◎年々医療に対する需要は変化をする中で、どこにいても適切な医療を最適な形で受けられるような対策を委員会としても議論を重ねる必要があると考える。</p>